

# 川原宿の

# 唐人橋

平成三年三月五日号

市立中央病院と、潤井川を挟んで南側の川原宿に、人の背丈を超える石柱が建てられています。今回は、この石柱に伝わる話を地元に加藤重夫さんに伺いました。

## 朝鮮使節団が来日

江戸時代の日本は鎖国といって外国との行き来を絶っていました。一部、オランダや中国、朝鮮とは開国していましたが、ふだん外国人を見たりすることはほとんどありません。

でした。

あるとき、朝鮮の使節団が来日し、東海道を江戸に向かって進みました。華やかな衣装の使節や幕府への献上品を積んだ馬など一行は長い列となって進み、沿道には多くの人が集まって見物しました。

## 川原宿に橋を

「熊さん、やっと橋ができたな」「よう八さん、朝鮮の使節の橋だったな」

熊さんと八さんは本市場のお百姓さん。その年の使節団のために川原宿に橋をかけることになり、人夫として幕府の命令で駆り出さ



れていたのです。

その時分の川原宿は、よく水害に遭い、名前のとおり川原のようなどころでしたが、土

地はよく肥えていて、作物がよくできました。また、わき水もあって小さな堀が幾つもある所でした。

## 大正時代、石橋に

江戸時代は、幕府の戦略的な理由から橋があまりありませんでした。そのため、大事なお客さんが来たときは橋をかけました。富士川のような大きな川では船を連ねて仮の橋をつくったりもしました。

川原宿にかけられた橋は、外国人が渡った橋ということから「唐人橋」と名づけられ、そのまま残りました。

大正五・六年ころ石の橋にかわりましたが、区画整理で取り壊されました。その際、石を記念にと、石柱が建てられました。

語ってくれた方

加藤重夫さん



▶ 石柱（平成十四年二月撮影）